元気ふくしま応援宣言！

File No.235

10月16日から3日間「ジュニアオリンピックカップ全国中学生陸上競技大会2020」が日産スタジアム（横浜市）で行われ、女子400メートルリレーに出場した福島三は、48秒96の県中学記録で6位になりました。昨年の県中体では0秒01差の2位で、全国切符を逃しました。主将の谷口紗菜さんは「みんな泣き崩れました。でも、今年優勝して全国に行くと誓いました」と話していました。今年はバトンパスの練習を繰り返し、8月に行われた今大会の県予選を制して全国出場を決めていました。03年の全国中学体育大会では、福島三が県中学新記録の49秒16で4位。谷口さんは「県中学記録を更新して3位以上、先輩を追い越したい」と目標を掲げていましたが、今大会の予選でいきなり49秒01の県中学新記録を出して3組を1位通過。決勝2組ではさらに記録を伸ばして、見事に〝先輩超え〟を実現しました。

DATA

▽女子4×100mリレー決勝2組
①咲くやこの花（大阪）48秒35
②浜松積志（静岡）48秒47
③加古川平岡（兵庫）48秒79
④県立安芸（高知）48秒79
⑤世田谷駒沢（東京）48秒89
⑥福島三（福島）48秒96
⑦京山（岡山）49秒59　⑧御幸山（愛知）49秒80

11日「福島県スペシャルマッチ」で初着用

県中学新で頂点

ジュニアオリンピックカップ出場！

福島第三中学校 陸上部

16日開幕陸上ジュニアオリンピックカップ

福島三

女子400メートルリレー0秒01差の涙から6人でつかんだ大舞台

ジュニアオリンピックカップ全国中学生陸上競技大会2020は16日から3日間、横浜市の日産スタジアムで行われる。女子400メートルリレーには、県大会を制した福島三が出場。昨年は0・01秒差の2位で全国に出場できなかった悔しさをぶつけ、03年の全国で先輩がマークした県中学記録を更新し、上位入賞を狙う。

バトンを意識 福島三のある福島市の信夫ケ丘競技場で、バトンパスの練習を行う選手たち。メンバー6人は全員3年で、昨年のジュニアオリンピックカップの女子100メートルで12秒15の大会新で優勝した谷口紗菜が中心になる。

悔し涙を力に変えた。昨年の県中体女子400メートルリレーで、1位のいわき泉に0秒01差の49秒84で2位。全国切符を逃した。チーム主将の谷口は「みんな泣き崩れました。でも、今年必ず優勝して全国に行くと誓いました」と雪辱を期した。

バトンパスの練習を行うメンバー

練習では、どんな状況でもバトンをつなぐことを意識した。二瓶励監督（45）は「途中でバトンパスを終わらせず、つなぐこと。終盤失速させないバトンワークも、このチームに合っている」と試行錯誤して現在のスタイルを確立。8月のジュニアオリンピックカップ県予選では50秒03で優勝し、2位に入った昨年優勝のいわき泉には0秒33差をつけた。

昨年はサブだった清水くららが成長し、1走を担当。通信陸上県大会の200メートルで4位の2走・木村夏七葉で加速する。努力を重ね、ついにレギュラーを獲得した平山鈴菜が3走。クラブチームで走っていた小学6年時に、全国小学生大会のリレーメンバーに選出されなかった悔しさを晴らす。その3人がついだバトンを、絶対的エースのアンカー・谷口に託す。

先輩超え目標 03年の全中では、福島三が県中学新記録の49秒16で4位に入賞。谷口は「県中学記録を更新して3位以上、先輩を追い越したい」とタイムと順位での先輩超えを目標に掲げる。0・01秒差で泣いた福島三の6人が、歓喜の最終章まで駆け抜ける。（佐久間　尚子）

選手意気込み

▽谷口　紗菜　目の前にいる選手を全部抜いて、中学最後の大会で一番いい走りがしたい。

▽木村夏七葉　紗菜に負担をかけないよう、1位でバトンを

福島市内で活躍する運動クラブや趣味の会などを中心に無料で掲載いたします。お気軽にお問い合わせください。0120-334-025